

平成30年9月定例会 小・中学校の在り方調査研究特別委員会副委員長報告

23番 小泉 栄正でございます。

私から、小・中学校の在り方調査研究特別委員会の報告をいたします。

本委員会は、少子化を踏まえ、小規模な小・中学校を取り巻く子どもの教育環境と地域の在り方について調査・研究を行うために、昨年9月に設置されました。

これまでの主な取組としては、市教育委員会で設置した、長野市活力ある学校づくり検討委員会の審議の経過を中心に調査をしてまいりました。

この検討委員会は、平成28年7月に市教育委員会から諮問された、「少子人口減少社会が進展する中で、少子化に対応して子どもにとって望ましい教育環境の在り方について」審議し、平成30年6月にそれまでの審議をまとめて答申を行いました。

その他、市内の小学校の状況を把握するため、小規模校の芋井小学校と中規模校の古牧小学校の視察、県外の先進的な取組を学ぶために、広島県福山市、京都府京都市及び福知山市の小・中学校連携教育の視察を行ってきました。

以上の取組の中で、調査の中心的なものであった長野市活力ある学校づくり検討委員会の審議のまとめに対して、意見のあった2点について申し上げます。

1点目は、審議のまとめに対して、市民の理解が深められる取組についてです。

今年の4月から5月にかけて行われた、審議のまとめに対するパブリックコメントには、114件と多くの意見が寄せられ、市民の関心が非常に高くなっております。

今回の答申では、教育環境の在り方や子育ての大事な考え方の理念が掲げられたわけですが、この理念は、まだ市民の皆さん、特に児童・生徒の保護者の皆さんと共有されていない状況です。

また、5月に開催されました「市民と議会の意見交換会」において、本委員会は、小中学校の在り方、小中連携教育をテーマに、小・中学生の保護者や小学校の先生など、多くの方に御参加いただき、意見交換を行いました。審議のまとめに対する議論の中で、これから取り組まれる教育環境の方向性について、賛成の声と共に不安を抱いているという声も幾つかありました。

これらの不安を払拭するためには、審議のまとめについて、これから学校へ上がる

児童の保護者を初め、地域の皆さんを含めた多くの方に、共有化されるようにきめ細かく説明を行う必要があります。その上で、答申のおわりに記載されているとおり、市民の皆さんに、この「審議のまとめ」を大切にいただき、未来を担う子供たちのことを第一に議論していただく取組を確実に進めるよう要望しました。

2点目は、審議のまとめを受けての今後の方向性についてです。

この審議のまとめは、いわゆる学校の統廃合や規模適正化等の配置計画の類ではなく、少子化時代にとっての教育環境の在り方というのがこうあってほしいという理念、これからの長野市の姿として求めていきたい理想がまとめられたものであり、本委員会として、この内容を尊重してまいりたいと考えております。

その上で、理想と現状の乖離を埋めるために教育環境をどうしていくことが子供たちにとって最善なのか、これからの検討が非常に重要になってまいります。少子化という厳しい時代の中で、たくましく生き抜いていけるような力を、小・中学校で付けられるように、市教育委員会として、義務教育9年間の具体的な在り方を示すよう要望しました。

最後に、意見交換会で出された他の御意見を紹介いたします。

参加された全員の方から御発言をいただき、小規模・大規模それぞれの学校の良い点や課題、子供の発達段階に応じた集団の中での学びの重要性、地域に学校を残すために小規模特認校の導入に向けた取組など、教育環境におけるたくさんの貴重な御意見を頂きました。

意見交換会で頂いた、いずれの御意見もこれからの小・中学校の在り方を考えていく上で非常に重要な視点であると受け止め、こうした御意見を踏まえて、未来を担う子供たちにとって望ましい教育環境と地域の在り方について、今後も本委員会として調査・研究を進めてまいります。

以上で報告を終わります。